

平成29年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成30年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成29年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成30年3月

観光営業部長 江端 誠一郎

項 目	実 施 結 果
<p>1 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇「幸福日本一・福井」の新ブランド戦略【部局連携】</p> <p>○「福井の知名度・好感度」全国上位へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民や市町と共動し、県外事務所とともに、幸福度日本一「FUKUI HAPPINESS」や恐竜王国、福井ならではの自然、歴史・文化、食などの魅力を戦略的に営業し、福井ブランドのメディア露出の拡大を図ります。 ・ドラマや映画の誘致に向け、本県ゆかりの題材やエピソードを制作関係者に提供するとともに、本県での撮影に対する支援制度も活用しながら、随時、放送局や制作会社へ働きかける積極的な営業を行います。 交流拡大施策 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>幸福度日本一「FUKUI HAPPINESS」や恐竜王国、福井ならではの自然、歴史・文化、食などの旬の情報を、市町から受けた情報も反映しながら季節ごとにまとめて提供するなど、延べ約600社のメディアに対し戦略的な営業活動を行い、82件のテレビ放送や雑誌掲載などにつながりました。</p> <p>地域ブランド調査2017における本県の魅力度が、前年の41位から2ランクアップし39位となりました。</p> <p>ドラマ「チア☆ダン」のロケ誘致に向け、TBSに対し、支援制度を示しながらロケ実施を要請するとともに、具体的なロケ候補地や福井の生活文化、食の情報を提供するなど継続的に協議を行い、その結果、県内ロケを実施したい旨の意向を確認しました。</p>
<p>○福井が舞台の「大河ドラマ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕末明治や戦国に活躍した本県の先人たちが主人公となり、福井を舞台とした大河ドラマの実現に向け、大河ドラマ誘致推進協議会を中心に、NHKへ強力に働きかけます。 ・歴史番組や雑誌、小説、歴史漫画、ドラマ等で取り上げてもらえるよう、NHKをはじめ民放、出版社等に対する営業活動を強化し、幕末明治や戦国時代における本県の先人の知名度向上を図ります。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>4月に誘致議員連盟とともにNHK会長に要請を行ったほか、今年1月に、役員に改めて要請しました。</p> <p>NHKをはじめメディア等への営業強化により、NHKや民放において、松平春嶽公の先見性や幕末の福井藩の功績を取り上げたドラマ・情報番組、杉田玄白が主人公のドラマ等が放送されました。</p> <p>また、春嶽公が主人公の小説（「天翔ける」葉室麟氏著）が出版されるなど、幕末明治期に活躍した本県の先人を全国にPRできました。</p>

項目	実施結果
<p>○福井のアニバーサリー</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕末明治150年となる平成30年に「幕末明治福井150年博(仮称)」を開催するため、市町や関係団体、企業からなる実行委員会を設置し、実施基本計画を決定するとともに、県内外への広報・PRやメイン会場での展示等の準備を進めます。 150年博を開催するに当たり、地域の核となる歴史資源の魅力を体感できるよう、史跡や歴史資料等が持つ意義や時代背景など様々な観点から磨き上げ、魅せる化することにより誘客拡大を図ります。 	<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>10月5日に県、全市町、経済団体、観光団体など44団体で構成する幕末明治福井150年博実行員会を設立し、実施計画を策定しました。</p> <p>実施計画に基づき、県・市町の文化施設などにおいて展示資料の収集や映像を制作するなど、3月24日の開幕に向け準備を進めました。</p> <p>150年博において企画展等を開催する市町文化施設の展示の充実やゆかりの地の整備の支援など、市町の150年博に向けた準備を促進しました。</p>
<p>◇「恐竜渓谷100万人構想」の実現【部局連携】</p> <p>○楽しみ学べる恐竜博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型肉食恐竜「アロサウルス」の実物全身骨格を組立作業から公開し常設展示するなど、「本物の魅力」による展示のスケールアップを図ります。 (平成28年度 90万1千人) <p style="text-align: center;">恐竜博物館入館者数 95万人</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2恐竜博物館(仮称)について、昨年度策定した基本構想をベースに、整備・運営手法や立地場所を具体化するとともに、施設の配置・規模や誘客対策、波及効果の拡大策等についても検討を深め、民間の参画意欲を把握します。交流拡大施策 ゴールデンウィークやお盆など繁忙期における恐竜博物館周辺の渋滞を緩和するため、パーク&バスライドを継続して実施します。また、クレジットカードが利用できる券売機を導入し、入館者の利便性の向上を図ります。 	<p>〔成果等〕目標にはいたりませんでした。</p> <p>平成27年10月に(株)林原から購入した大型肉食恐竜「アロサウルス」の実物全身骨格の設置・組上げを一般公開し2月から常設展示するなど展示のスケールアップや、東京都内の大型商業施設「ららぽーと豊洲」等のPRイベントの開催により恐竜博物館の入館者数増加を図りましたが、北陸新幹線開通効果の落ち着きに加え、夏秋の長雨や1月下旬からの大雪により、目標を達成することができませんでした。</p> <p>今後は、所蔵する骨格化石の博物館等への貸出展示等によるPRにより、全国からの来館者増を促します。</p> <p>さらに企業と共動した子ども向けの恐竜セミナーを開催や恐竜の分類や進化を分かりやすく伝える恐竜系統図などを作成することにより、展示を楽しみながら恐竜への理解を促進するほか、恐竜の中でも特に人気の高い肉食恐竜やその子孫にあたる鳥類への進化に焦点を当てた特別展を開催し集客を図ります。</p> <p style="text-align: center;">恐竜博物館入館者数 80万人</p> <p>県議会での議論を踏まえ、整備の可能性を探るためのものとして、博物館に必要な機能や概算事業費、民間参画による整備・運営手法、立地候補地等について、2月から調査検討を開始しました。</p> <p>勝山市とともに、繁忙期にパーク&バスライドを実施した結果、国道側にまで渋滞が及ぶことはなくなり、全体的に渋滞は減少しました。</p> <p>また、1月からは、クレジットカードや電子マネーに対応した券売機を設置し、来館者の1割近い方が利用するなど、入館者の利便性の向上に努めました。</p>

項目	実施結果
<p>○恐竜学研究の世界拠点へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4次恐竜化石発掘調査において、新たな標本の更なる発見に努めるとともに、採取した化石のクリーニング作業を進めます。また、国内外の共同発掘調査・研究を継続して進めるとともに、「アジア恐竜協会」の国際シンポジウムにおいても中心的な役割を担い、アジアにおける恐竜研究の拠点としての地位を確立します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>第4次発掘調査を7月下旬から9月上旬まで実施した結果、化石の密集層に到達し4,000点を超える脊椎動物の化石が発見され、その中から世界でも最古級のヨロイ竜の歯化石を発見しました。</p> <p>国内共同研究においては、山口県下関市の恐竜卵化石、熊本県天草市の大型恐竜、長崎市の鳥脚類恐竜の歯化石など相次いで発見し、本県博物館にも展示しました。</p> <p>海外では、タイのシリントーン博物館や、中国の浙江自然博物館と共同で調査を行いました。これらの共同研究で採取した化石については、クリーニング作業・分析を行い、その成果として、骨格等を恐竜博物館に展示しています。5月には、中国湖南省においてアジア恐竜協会の国際シンポジウムが開催されました。また、県立大学が、中国科学院古脊椎動物・古人類研究所、浙江自然博物館との共同により、ゴビ砂漠において恐竜化石発掘の予備調査を行い、次年度の発掘調査場所を選定しました。</p>
<p>○ジュラチックによる恐竜ビジネスの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業等に対する営業活動の強化や新たな企業とのコラボにより、公式恐竜ブランドキャラクター「ジュラチック」を活用した商品の開発・販売を拡大します。 アニメ専門テレビ局等とタイアップし、「ジュラチック」を主人公としたアニメ番組を制作、放映し、「恐竜王国福井」の認知度アップを図ります。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>日本生命とコラボし、保険商品「福井Juraticプラン」を販売したほか、昨年度に引き続き、カバヤ食品とのコラボにより、玩具菓子「ほねほねザウルス」を開発・販売するなど、今年度開発したJuraticを活用した商品は、33アイテム増え、累計331アイテムとなりました。</p> <p>このほか、北陸コカ・コーラボトリング(株)とのコラボにより、恐竜をデザインしたコカ・コーラが販売され、売り上げの一部が本県に寄付されました。</p> <p>10月から、アニメ専門チャンネル「キッズステーション」において、自治体キャラクターとしては全国初となるジュラチックを主人公としたアニメの放映を開始しました。</p>

項目	実施結果
<p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】 ○100万人観光地の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 永平寺門前や今庄宿、小浜西組周辺の県内3地区で継続して実施している「観光まちなみ魅力アップ事業」を着実に推進し、核となる観光地を整備します。 北陸新幹線敦賀開業、中部縦貫自動車道全線開通に向けて県内を訪れる観光客の滞在時間と観光消費額を増やすため、6つの事業エリアごとに複数の市町、観光団体や民間事業者が連携し実施する、ソフト事業を支援します。 (平成28年 3か所) <p style="text-align: right;">100万人観光地数 5か所</p>	<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p> <p>今庄宿（南越前町）では、ふくいの伝統的民家である旧齋藤家を「古民家レストラン」として整備し、平成29年11月10日にオープンしました。 このほか、永平寺門前の旧参道等の整備、小浜市三丁町の景観整備などを進めました。</p> <p>県内での滞在時間や宿泊数を伸ばし、観光誘客や観光消費額の拡大につなげていくため、県内6エリアで複数市町、観光団体や民間事業者が連携し実施する13のソフト事業について支援しました。</p> <p>しかし、過去最高の観光客数となった昨年と比べると北陸新幹線開業効果に落ち着きがみられ、秋の長雨の影響もあり、100万人観光地は「東尋坊」と「恐竜博物館・かつやま恐竜の森」の2か所となり、目標を達成することができませんでした。 今後は、市町が行うハード整備に対し支援を実施するなど観光地の魅力づくりをさらに進め、誘客拡大を図ります。</p> <p style="text-align: right;">100万人観光地 2か所（見込み）</p>
<p>○観光客1300万人の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線金沢開業による誘客効果を持続させるため、民間事業者ともコラボし、引き続き上野駅など首都圏や新幹線沿線において、集中プロモーションや魅力発信の事業を効果的に実施します。 北陸への誘客拡大を進めるため、北陸三県とJRが共同し、四季毎にテーマを定めた通年での誘客キャンペーンを実施します。 	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>首都圏および北陸新幹線沿線において、年間を通じた多様なプロモーションを実施しました。 平成29年6月にはJR上野駅において、大型フラッグや恐竜リアルバルーンの展示、9月にはツーリズムEXPOジャパンにおいて恐竜骨格の展示、30年1月にはJR大宮駅において、JR東日本管内の駅で初めて恐竜ライブショー「DINO-A-LIVE」を開催するなど、恐竜を活かした出向宣伝などを実施しました。 また、年間を通じて東京駅や品川駅、北千住駅などJR東日本管内の主要駅のほか、埼玉県的大型ホームセンターなど、北関東を中心に集中的な観光プロモーションを実施しました。 さらに、首都圏の約120のJR駅に、年4回「FUKU I HAPPINESS」シリーズの観光ポスターを掲出し、本県の観光PRと認知度の向上を図りました。</p> <p>北陸3県とJRグループなどとの共同で、平成29年4月から11月まで「日本の美は、北陸にあり。」キャンペーンを、また12月から3月までの4か月「Japanese Beauty Hokuriku」キャンペーンを、年間通じて開催しました。 それに合わせ4月28日～5月7日にインテックス大阪で開催された「食博覧会・大阪」に北陸三県ブースを出展するなど、本県への誘客を図りました。</p>

項目	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> 小松空港を活用した誘客拡大を図るため、機内誌で県内観光地を紹介するほか、石川県と連携した首都圏からの旅行商品の造成を促進するなど、航空会社等と連携した誘客プロモーションを実施します。 泰澄ゆかりの地を専門ガイドと巡るバスツアーの実施、県立歴史博物館における特別展の開催、石川県、岐阜県と協働したガイドブックの作成や情報発信など、泰澄大師白山開山1300年に合わせた記念事業を行います。交流拡大施策 永平寺大野道路の全線開通記念キャンペーンを展開し、奥越・永平寺エリアなどへの誘客拡大を図ります。交流拡大施策 若狭さとうみハイウェイや京都縦貫自動車道を活用して誘客拡大を図るため、京都府、滋賀県等と連携し、日本遺産など共通の素材を活かした観光ルートの開発や高速道路定額乗り放題プランなどを実施し、広域周遊観光を推進するほか、嶺南6市町とともに展開する「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンを実施します。交流拡大施策 福井県観光連盟を中心に、観光事業者や団体・行政等が一体となって、福井県の特徴ある地域資源を活用した新たな旅行商品の開発などを進めます。 (平成28年 入込数 1,347万人 消費額 967億円) <p>観光客入込数 1,300万人 観光消費額 1,000億円</p>	<p>航空会社と連携し、“ZEN”ブランドのほか、越前がに等福井県の魅力を発信する特集記事を機内誌に掲載しました。 また、石川県と連携し、羽田ー小松便を利用した旅行商品の造成を支援しました。</p> <p>大手旅行会社に泰澄ゆかりの地である平泉寺へのバスツアー一造成を働きかけ、6月に、2府8県から約2千人が訪れました。また、福井県観光連盟および越前町観光連盟の協力を得て、泰澄ゆかりの地を巡るバスツアーを11回実施しました。 県立歴史博物館では10月から11月にかけて白山開山1300年記念特別展を開催し、白山信仰における泰澄の意義などについて広く紹介しました。 このほか、石川県、岐阜県と共動し、ガイドブック「まっぶる白山」の発刊や東京や名古屋等で観光PRを行うなど、様々な記念事業を展開しました。</p> <p>永平寺大野道路の全線開通に合わせ、7月2日には永平寺町で、15～17日には勝山市で誘客イベントを開催し、エリアへの誘客拡大を図ったほか、各市町を周るスタンプラリーを開催し、エリア全体の周遊を促しました。</p> <p>7月から11月までの5か月間、「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンの第4弾を嶺南市町とともに開催しました。 日本遺産「御食国と鯖街道」をはじめ、若狭の歴史・文化施設を周る「若狭路歴史ラリー」によるPRなどにより、誘客拡大や周遊促進を図りました。 あわせて、滋賀県、京都府およびネクスコと連携し高速道路料金割引を実施しました。</p> <p>県観光連盟、観光事業者、県・市町等が一体となり、冬季間の誘客を促進するため、酒造りなど様々な体験を行う「冬の観光メニュー」を開発し、販売しました。</p> <p>これらの施策の実施により誘客促進に努めましたが、過去最高の観光客数となった昨年と比べると北陸新幹線開業効果に落ち着きが見られ、秋の長雨の影響もあり、観光消費額について目標を達成することができませんでした。 今後は、幕末明治福井150年博や首都圏での誘客キャンペーンの実施など、あらゆる機会を活用し、県内外において本県の魅力をさらに発信していくことにより、誘客拡大を図ります。</p> <p>観光客入込数 1,304万人（見込み） 観光消費額 977億円（見込み）</p>

項目	実施結果
<p>○奥越を自然環境の体験学習エリアに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年楽しめる人工ゲレンデの整備やミルク工房奥越前の機能向上を図るとともに、六呂師高原全体の誘客拡大に向けて、地元が主体となって賑わいを創出し、民間と共動して、「通年型・滞在型の体験学習・スポーツエリア」の実現を目指します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>夏のスキー体験ができる人工ゲレンデを整備しました。(平成30年4月にオープン予定)</p> <p>ミルク工房奥越前では、菓子製造加工室の整備など機能向上を図り、奥越高原牧場の生乳を活用したスイーツを開発し、平成30年1月から販売を開始しました。他の各施設においても体験メニューの充実を進めるなど、六呂師高原の関係者が連携し、「通年型・滞在型の体験学習・スポーツエリア」を目指し、魅力を高めました。</p>
<p>○海外誘客の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアや欧米等からの誘客を促進するため、海外の旅行会社等のほか、外国人客が訪れている近隣県の観光施設等に対して、本県の“ZEN”ブランドを売り込みます。 ・外国人観光客向けに「福井ならではの体験・交流プログラムについて拡充を図るとともに、インターネットを活用した旬の観光情報発信を促進します。 ・本県も参画する広域連携DMOにおいて、「昇龍道」や「美の伝説」など広域観光周遊ルートについて、近隣府県と連携し、エリア内への誘客拡大を図ります。交流拡大施策 ・台湾等からの教育旅行の誘致拡大を図るため、現地説明会に参加するほか、県内への教育旅行関係者視察を促進します。 ・外国人受入環境の整備のため、消費税免税店開設を促進するとともに、大手航空会社等と連携し、観光事業者等を対象にした外国人接客のための研修会を開催します。 (平成28年 外国人宿泊者数 54,000人 免税店数 59店) <p>外国人宿泊者数 70,000人 消費税免税店数 11店増 累計70店</p>	<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>“ZEN”ブランドを活用し、台湾、中国、香港、タイのほか、欧米等からの誘客拡大を図るため、海外旅行会社356社への訪問営業を実施したほか、海外メディア83社の県内取材を支援するなど、誘客宣伝を行いました。</p> <p>寿司やかまぼこ作り体験など、外国人観光客に人気の体験・交流プログラムを5項目追加したほか、ふくいドットコム英語ページに陶芸やそば打ちなどの体験レポートや旬の観光情報を動画等で発信しました。</p> <p>「昇龍道」や「美の伝説」、「北陸新幹線沿線」など本県を含む広域観光ルートについてアジアや欧州での海外旅行博で売り込むなど、近隣府県とともに誘客宣伝活動を実施しました。</p> <p>台湾の三大都市(台北、台中、高雄市)で開催された教育旅行説明会に参加し、「年縞」や「恐竜」、「漁業体験」など本県の教育旅行素材を現地の教育旅行関係者26校に直接売り込んだほか、県内において、実施に向けた現地視察・確認の対応を行いました。</p> <p>あわら温泉旅館などに消費税免税店開設を働きかけたほか、航空会社と連携し、県内観光事業者80人に対して外国人接客研修を実施しました。また、タクシーにおける多言語対応の促進のため、国、県タクシー協会と連携し、コミュニケーションシートを作成し、協会に加盟する全車に設置しました。</p> <p>これらの結果、外国人宿泊者数は、台湾や香港、欧米客が増加し過去最高となりました。しかしながら、中国の団体旅行の減少等により、目標には至りませんでした。</p> <p>今後、台湾に観光営業窓口を設置し、現地旅行会社へ継続的に訪問するほか、石川県と共同し香港で観光説明会を開催するなど、本県の魅力を売り込み、誘客拡大を図ります。</p> <p>外国人宿泊者数 68,400人(速報値) 消費税免税店 11店増 累計70店(見込み)</p>

項目	実施結果
<p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井県観光アカデミーを引き続き開講し、本県観光におけるイノベーションを創出するため、現場感覚と理念の両方を持って、観光産業やまちづくりをマネジメントできる人材を育成します。 福井県認定観光ガイド養成講習会を開設し、多彩な観光コースの提案が行える人材を育成し、道の駅や観光案内所などでの活動を促進します。 平成30年の福井国体に向け、観光おもてなしに関するセミナーの開催やハンドブックの作成・配布などにより、全県的なおもてなし力の向上につなげます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井県観光アカデミーを昨年度に続いて開講し、県内各地の宿泊・交通等の観光事業者や、市町・観光団体の職員など32名が受講しました。</p> <p>地域における観光の中核となる人材を育成するため、現場で役に立つ知識や考え方を習得する実践的な講義を実施したほか、受講者が各エリアの観光振興策を作成し、観光関係者に対してプレゼンテーションしました。</p> <p>旅の目的や滞在時間など観光客のニーズに応じた観光コースの提案等が行える人材を育成するため、福井県認定観光ガイド養成講習会を昨年度に続いて開設し、県内各地から43名が受講しました。</p> <p>認定試験を合格した36名が、新たな福井県認定観光ガイドとして県内の道の駅や観光案内所などで観光客に対する案内等を実施することにより、来訪者の満足度を高めます。</p> <p>国体・障スポに向けた観光おもてなし力の向上のため、観光事業者や国体ボランティア等を対象に、おもてなしに関するハンドブックを作成・配布したほか、セミナーを県内4か所で開催しました。</p>
<p>2 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に</p> <p>◇福井の文化をもっと身近に</p> <p>○子どもの文化・芸術活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学5年生全員が県立音楽堂で本格的なプロオーケストラの演奏を体験する「ふれあい文化子どもスクール」を開催するほか、福井ゆかりのプロの演奏家を中学校等へ派遣する「出張音楽堂」を開催し、本物の芸術文化に触れる機会を提供します。 学校鑑賞会として県立文化施設の企画展に児童生徒を招くほか、美術、書道、管弦楽、演劇等の分野において、中高生が一流の芸術家から直接指導を受ける機会を提供します。 (平成28年度 78,175人) <p>一流の芸術・文化を体験する子どもの数 79,000人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県立音楽堂において、小学5年生全員が本格的なプロオーケストラを鑑賞する「ふれあい文化子どもスクール」(7,208人参加)を開催しました。</p> <p>また、3年目となる「出張音楽堂」は、昨年度に引き続き、福井ゆかりのプロの演奏家を中学校および小学校の連合音楽会等に派遣し、小中学校併せて年間40回(14,356人参加)のコンサートを開催し、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を提供しました。</p> <p>県立美術館などでの学校鑑賞会(3,622人参加)や、県立美術館所蔵の屏風絵「落葉」のレプリカを活用した出前授業(2,553人参加)を開催し、小中学生が芸術文化に親しみ、関心を深める機会を提供しました。</p> <p>また、福井の芸術文化を担う人材を育成するため、美術、書道、演劇、合唱、管弦楽などの分野において、中・高校生が一流の芸術家から直接指導を受ける「ヤング・アート・キャンプ」(1,125人参加)を実施しました。</p> <p>一流の芸術・文化を体験する子どもの数 79,080人</p>

項目	実施結果
<p>○文化施設の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者など外部協力者からの情報を収集しながら、県外に所蔵されている福井ゆかりの美術品等の蒐集を進め、文献資料等の充実を図るとともに、魅力ある多彩な企画展を開催し、誘客拡大に努めてまいります。 <p>(美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 至高のルネサンス美術を堪能できる、日本初上陸・本県のみ開催の「フラ・アンジェリコ展（仮称）」、近代日本画の魅力を広く発信する「狩野芳崖と四天王展」、スタジオジブリ作品のアニメ原画や背景画が鑑賞できる展覧会など、開館40周年を記念した大型企画展を開催し、県内外からの誘客を進めます。 <p>(若狭歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 明通寺の「十二神将象」をはじめ若狭に伝わる仏像の魅力に迫る「知られざる若狭のみほとけ ～中世若狭の仏像～」を開催するなど、特色ある若狭の歴史・文化を県内外に強力に発信します。 <p>(歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 杉田玄白に代表される医人を中心に戦国から明治時代までの医学の歴史を紹介する「越前若狭の医学史 ～ふくい の医人たち～」、越前での白山信仰の実情を紹介する白山開山1300年記念展を開催します。 平成30年の幕末明治福井150年博の開催に向けて、幕末から明治期における本県ゆかりの重要資料の充実を図るとともに、幕末明治期に撮影された写真をもとに、先人の功績や暮らしぶりを伝える映像資料を作成します。 <p>交流拡大施策</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>教育庁や文化施設の学芸員などで構成する福井コレクション推進チーム会議を開催し、重要資料の蒐集に向けて情報を共有するとともに、一乗谷ゆかりの刀剣を購入により蒐集しました。</p> <p>美術館では、開館40周年を記念し、大型企画展を連続開催しました。このうち、「フラ・アンジェリコ」展についてはイタリア側の事情により「県立美術館名品200選展」に変更し、大人から子どもまで幅広い層の誘客を図りました。9月からは、秋季企画展「狩野芳崖と四天王展」、12月からは、冬季企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」を開催しました。県内外に強力に情報発信を行った結果、「スタジオジブリ・レイアウト展」には、6万人を超える来館がありました。</p> <p>9月から「知られざるみほとけー中世若狭の仏像ー」を開催したほか、日本遺産魅力発信企画展などを開催し、若狭地域の特色や歴史文化の魅力を県内外に発信しました。</p> <p>7月から夏季特別展「越前若狭の医学史～ふくいの医人たち～」、10月から秋季企画展「白山開山 1300 年記念 泰澄～白山信仰における意義を探る～」を開催したほか、本県の身近な出来事などを振り返る企画展やギャラリー展を開催し、誘客拡大を図りました。</p> <p>「幕末明治福井150年博」の特別展の開催に向け、初公開となる坂本龍馬の書状等重要資料の展示について所有者等との交渉を進めるとともに、明治期の風景や暮らしぶりを現代と比べながら紹介する映像等を作成しました。</p>

項目	実施結果
<p>3 豊かな環境、すぐれた風景を次の時代に</p> <p>◇福井が誇る歴史遺産の発信 ○日本最大の戦国城下町「一乗谷ミュージアム」</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成33年度中の開館に向けて、一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)「展示・ガイダンス棟」の建築基本設計を作成するとともに、展示実施設計に着手します。交流拡大施策 日本トップレベルの中世都市遺跡研究の拠点化を進めるため、考古、文献、建築史、庭園史等の分野を超えた学際的な研究の推進に向けた具体的な検討を進めます。 特別名勝庭園の再生・観賞化に向けた調査、復原町並での戦国城下町の人々の生活再現などを実施し、スケール感のある本物の歴史空間としての整備を進めます。 県と福井市との間で、業務や役割を十分に協議し、推進体制の強化を図り、ミュージアム化のスピードアップを図ります。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の展示実施設計を進めるとともに、建築基本設計を作成しました。展示の実施設計では、昨年7月、発見された大規模な石敷遺構を博物館の目玉として展示・活用することとしました。また、建築の基本設計では、戦国城下町跡のゲートウェイ施設としてふさわしく、また、周辺の景観にも配慮した外観イメージをとりまとめました。</p> <p>日本トップレベルの中世都市遺跡研究拠点化に向け、国内研究者によるワーキングを開催し、中世の建築物や庭園文化、一乗谷の民俗芸能等のテーマごとに、今後の研究体制の充実(大学や研究所等の研究員の受入れ、外部研究員制度の創設)等について検討を行いました。</p> <p>復原町並において、ゴールデンウィークとシルバーウィークなどに合せ、戦国城下町の生活再現を実施しました。 特別名勝庭園の再生・観賞化に向け、庭園史、造園学、考古学、保存科学、建築学の専門家との意見交換を実施し、福井市とともに現状課題の共有、整備の進め方などについて検討を行いました。</p> <p>なお、特別名勝庭園の再生・観賞化については、福井市が設置した委員会に県も参画し、活用について検討を行いました。</p>
<p>○福井の遺産を日本・世界遺産へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北前船寄港地・船主集落」について、敦賀市や南越前町等と連携して県内外に発信し、誘客拡大を図ります。さらに、一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺、永平寺など中世の歴史遺産をはじめ、本県に集積する魅力ある遺産群の「日本遺産」認定等を推進します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>平成29年4月に日本遺産認定を受けた「北前船寄港地・船主集落」について、県内のほかの日本遺産とともにその魅力をホームページなどで発信しました。また、坂井市および小浜市の追加認定に向け、両市に対し北前船日本遺産推進協議会への参加の働きかけや、協議会事務局へ要望を行い、両市を含む全国27自治体が追加申請を行いました。</p> <p>日本遺産の第4弾の公募(国認定:30年4月予定)に、県は福井市およびあわら市と共同で、一乗谷朝倉氏遺跡と吉崎御坊跡をテーマに認定申請を行うなど、本県からは合わせて5件の新規申請を行いました。</p> <p>〔中世・戦国の世界を未来につなぐ懸け橋ー戦国越前文化と福井ー(福井県、福井市、あわら市) ・越前白山麓に息づく「神仏が宿る住まい」～禅とともに広がった社寺づくりの技と食文化～(永平寺町、勝山市) ・思いやり助け合う日本人の伝統がつくる清(さや)けしまち(大野市) ・六千年の越前工芸伝説ー古人から受け継がれた技と技術が今も人々を驚かすー(越前市、鯖江市、越前町) ・芭蕉が残した自然観・風景観～時代を越えて詠われた地(敦賀市など全国29自治体)〕</p>

項目	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> ユネスコ無形文化遺産である「和紙」への早期追加登録に向け、越前和紙の技術保持団体について、国の重要無形文化財への指定を推進します。また、本県の「水海の田楽能舞」、「睦月神事」をはじめ全国に数多くある同種の重要無形民俗文化財を包括した「日本の田楽」の選定を推進します。 	<p>「越前鳥の子」の技術保持団体が国の重要無形文化財指定を受けた越前和紙、および国の重要無形民俗文化財である県内の田楽がユネスコ無形文化遺産へ早期に登録されるよう、文化庁に対し要望を行いました。</p>
<p>○豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさとの伝統的民家・まちなみ保存の拡大を図るため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家群保存活用推進地区」の認定・指定を継続して進めます。 (平成28年度 累計 76 団体) <p>福井ふるさと百景活動団体・伝統的民家群保存活用推進地区 9 団体増 累計 85 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域景観ガイドラインに基づき、福井らしい特徴を持つ市町を越えた広域的な景観を発信するため、6つの景観軸ごとに県、市町、民間団体等で構成する「広域景観協議会」を設立し、事業実施計画を策定します。 特に、越前海岸の水仙畑については、重要文化的景観の選定に向けた本格調査に着手するとともに、北陸新幹線沿線景観軸については見晴台の整備候補地の調査を実施します。 	<p>〔成果等〕引き続き実施します。</p> <p>福井ふるさと百景選定地で、夜間景観の創出や植栽、自然体験会の実施など景観の保全・活用に取り組む「福井ふるさと百景活動団体」を今年度新たに5団体認定し、その活動を支援しました。 また、伝統的民家が集積している福井らしい集落や町並み景観の保全に取り組む「伝統的民家群保存活用推進地区」を今年度新たに4地区指定し、その活動を支援しました。</p> <p>福井ふるさと百景活動団体・伝統的民家群保存活用推進地区 9 団体増 累計 85 団体</p> <p>各景観軸における「広域景観協議会」の設立については、市町との協議の結果、九頭竜文化、越前ものづくりの里、若狭里山里海湖の3つの景観軸に関しては、既存の周遊・滞在型観光推進事業の協議会において事業内容を検討の上、30年度以降に事業を実施することとし、越前海岸景観軸については、水仙畑の重要文化的景観の選定に必要な調査を進める中で検討することとしました。また、北陸新幹線沿線および旧北陸道景観軸については、今後、事業の実施方法や内容等とともに、事業実施計画を検討することとしました。</p> <p>越前海岸の水仙畑については、保存調査有識者検討会を2回開催し、重要文化的景観の選定に向け必要となる保存調査を実施しました。また、北陸新幹線の見晴台の整備候補地については、市町との協議の結果、新幹線の工事が進捗し眺望状況が把握できる時期に既存の良好な眺望箇所も含めて検討することとしました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)